

三原市民と市長の「みらいトーク」(第19回)実施結果

令和4年12月20日

目的 市長が地域や団体の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図る。

日時 令和4年12月16日(金)18時～19時30分

場所 三原市役所本庁舎4階 市長応接室

参加者 三原市PTA連合会役員を中心とした保護者代表(8名)、三原市長

【内訳】

- ・市P連会長(1名) ・市P連副会長(5名) ・全市P連母親代表(1名)
- ・小学校PTA会長, 中学校PTA副会長(1名)

【三原市PTA連合会】

小・中学校のPTA活動を通じて、三原市内における社会活動及び家庭教育の充実に努めるとともに、社会教育及び家庭教育の連携を深め、青少年の健全育成, 児童・生徒の健やかな成長, 安心・安全な環境を構築し、社会の発展に寄与すること。

1 コロナ禍における子どもたちの学びや遊びの環境について

(参加者から)

- ・子どもの学ぶ意欲が落ちてきていると感じる。
- ・部活動の大会なども中止になり、目標設定が難しくなったことで意欲が低下していると感じる。
- ・自信がもてない子どもが多くなったように感じる。
- ・学校行事やPTA活動も中止になることが多く、親同士が顔を知らない、人柄がわからないことが多くなった。保護者同士も集まりにくくなっている。早期に保護者同士の活動の重要性をしっかりと考えて行動に移すことが必要。
- ・青春を失ったまま学校生活を終えて、かわいそうだと感じた。
- ・学校行事が少なくなったので、先生と関わることも少なくなった。
- ・学校の情報やアンケートなどがすぐメール配信システムで送ってもらえたことは、とてもありがたかった。学校とつながることができているので継続してほしい。
- ・地域とのつながりが薄くなっているので、地域の人が学校の運営に協力するコミュニティスクールの制度を具体的に検討していくことが必要だと感じている。
- ・地域での遊び場が少なくなっている。
- ・公園でボール遊びができないなどは、大きな問題だと感じる。のびのびと遊べる環境をつくるのが大切。

(市長から)

- ・すぐーなどは、コミュニケーションを活発化させることのきっかけになっているというふうに思っているので、今後も推進していきたい。
- ・コミュニティスクールはまだ話は導入していないが来年度から導入に向けて動いていこうと考えている。
- ・学校運営協議会と地域学校協働本部を両輪で立ち上げることを三原市はコミュニティスクールのあり方として目指している。
- ・学校運営協議会は、学校が作成した様々な計画を承認してもらう場であり、地域学校協働本部は地域の皆さんを巻き込んで学校を支える、学校とともに共同でいろんな学びを作っていくような本部であると考えている。
- ・コミュニティスクールを立ち上げることによってPTAの活動が活発化していくことを期待している。
- ・コミュニティスクールを導入していく上では、PTAの理解と協力が必要不可欠であると考えている。

2 GIGA スクール構想の実際について

(参加者の意見)

- ・教科書が重いと感じるので、タブレットを使うなら、もう少しランドセルが軽くないか。
- ・ICT 端末はあくまでツールであると感じている。抵抗なく使えるようになってくれるとよい。
- ・学校を休む子もリモートでやってくれるため、ありがたい。
- ・若い先生はうまく使いこなしていると思うが、年配の先生はなかなか使いこなせていないように感じる。
- ・大人のコミュニティをつくるためにも活用できないかと感じている。

(市長から)

- ・クラスでそれぞれの意見を集めようとしたときにプリントを配布して記入し、プリントを集めて先生方が集計していたが、今はタブレットを活用して、皆がどういう意見を出したかすぐに把握することができる。
- ・お互いがどういうことを考えているかを見える化し、それを交流して深めていくということもできることは利点である。
- ・タブレットの活用によって学びが深まるということを目指していかなければならないと考えている。
- ・学級閉鎖になった時に子どもがタブレットを持ち帰り、自宅からオンラインで学びを止めないということができることは、コロナ禍における活用としてよかった。

3 SNSのいじめなど、デジタルやICTの危なさについて

(参加者の意見)

- ・家庭でのルールづくりが大切。
- ・体験する活動は子供の成長に必要。例えば、公園でボール遊びができるなど、ハード面の整備も必要。
- ・日常の会話で SNS の危険について話をするなど、生活の中で SNS の危険性を親が伝えていくことが大切。
- ・大人もデジタルツールの使い方を学び、使えるようにすることで子供に安全な使い方について教えていくことが必要。

(市長から)

- ・公園については、久井や大和で今年度新たな遊具を設置した。今後も引き続き市民のみなさんの意見を参考にしていきたい。

4 部活動の地域移行について

(参加者の意見)

- ・部活動の数が減ったり、子供の数も少なくなってきたりしていると感じている。
- ・地域移行後の久井や大和の子どもたちの交通手段が心配である。
- ・文化部は、どの学校も選択肢が少ないため、多様な選択ができる環境を構築してほしい。
- ・部活動がなくなったときに、スポーツや文化活動をもとからやりたい子はやると思うが、選択肢があいまいな子は迷うのではないかと心配している。

(市長から)

- ・現在、リージョンプラザでバトミントンなどの新たなができる環境を構築している。
- ・各学校から希望するスポーツができる環境を作ることが、地域移行のねらいの一つであると考えている。
- ・一方で指導者の指導の質をどう確保していくかなど様々な課題がある。

5 その他

(参加者の意見)

- ・子供の学校生活や夢について意見をとったりすることでニーズを把握し、PTAの代表と話し合ったりする機会をつくることで、子供の主体的な学びを支えていきたいと感じている。